

紹介

魚澄先生
古稀記念 国史学論叢

先生の古稀の寿をお祝すべく計画された論文集が、先生の靈前に捧げられねばならなかつたとは、果して誰が予想したのであろうか。そして先生は古稀記念の事業を大そう喜んでおられたという。先生ならびに関係者一同の心中はまことにお察しするに余りあるものがある。

この論文集の内容は、逐一の紹介はやめて目録を掲載するにとどめるが、一言にしてこれをいえば、全篇五七篇、論題において、執筆者の顔ぶれにおいて、誠に多彩豊富、日本史の主要なる問題は悉く集約されているというも不可はない。

かくも多数の執筆者の、各々最も得意とするテーマによる論致を一卷に聚め得たのは、関係者一同の努力もさることながら、何よりも先生の遺徳の偉大さによるといわなければならぬ。先生の遺徳を顕彰することは、もとよりここはその場ではないが、多様な執筆

陣と、論集に収録されている年譜・著作目録を見るにつけ、今さらながら、史学界に印された先生の足跡の偉大さ、我々後学への垂訓の鴻大さを痛感するのである。先生の御冥福を心からお祈りする次第である。

中世港町における航運活動 青木 茂

—高野山領備後尾道を中心にして—

高野山御手印縁起について 赤松俊秀

大阪の洋学 有坂隆道

—その勃興期の様相— 鑄方貞亮

続日本紀に表れた対蝦夷政策

—時代的変遷について— 石川 謙

生成過程における家塾と藩学との関係 井上 薫

和泉大野寺土塔原形考 今井林太郎

高野山領紀伊国荒川荘 中世荘民の生活

初期条約改正史上におけるジエ・ブスケの寄与 梅溪 昇

下野国府の所在地考 大島延次郎

中世日本における禪の二潮流について 延喜式記載の土器

荻須純道 坂上七名と平野の荘園

南北朝の動乱を契機とする武士団性格の変化 承和三年の諸寺古縁起について

河合正治 生玉法案寺

班田図と条里制 岸 俊男

狭山藩の家中騒動 木村武夫

家光の大名統制について 熊田重邦

広島藩の商業統制 後藤陽一

朴金山 小葉田 淳

—東北地方金山経営の二型態—

土井藩の農兵 小林 茂

—日本軍隊生誕期の一考察—

宿駅の宿という称呼について 坂本太郎

近世大阪における証券市場の展開 作道洋太郎

水無瀬の庭園について 佐々木利三

金峰山の研究 佐藤虎雄

—金峰山記創草期について—

近世封建貢租に関する一考察 塩野芳夫

—貨幣地代の成立過程— 柴田 実

—和泉国日根荘について—

「間重富」小論 末中哲夫

延喜式記載の土器 末永雅雄

坂上七名と平野の荘園 曾根研三

承和三年の諸寺古縁起について 藺田香融

生玉法案寺 瀧川政次郎

鎮西奉行についての一・二の考察 竹内理三

非著名寺院の開創伝承

竹田聴洲

—天正一一年河内加納村水帳について—
初期真宗における門徒名帳の一例

史話』が刊行されている。「京阪神のあけぼの」にはじまり、「中世の京阪神」「京阪神の社寺」「大阪商人」「上方風物誌」の各章に分つて、多数の筆者により平易に述べられている。先生の業績の一つは古社寺の研究、歴史地理学の、いわゆる「歩く歴史」にあつたことを思えば、この刊行は、まことに先生古稀記念と追悼にふさわしい、そしてこの種記念事業にあつては誠にユニークな企画であるといえよう。併せて紹介をしておく。

幕末維新时期における岡山藩の兵制改革

谷口澄夫

廻漕会社の興廢

宮崎円遵

刈谷藩に関する研究と表題しているが、刈谷藩それ自体の研究ではない。それは恐らく夭逝した著者の窮局の研究目標であつたのであろう。遺稿の編者は名古屋大学の重松久久氏。研究篇八四頁・史料篇二二二頁・物価篇七〇頁の三部からなつてゐる。

樽廻船輸送の海損分担

津川正幸

並河誠所の学問と実践

宮本又次

武藤 誠

文政段階における種物及び油に関するいわゆる「国訴」について

津田秀夫

—史蹟踏査と建碑の事蹟について—
芦屋市会下山・城山遺跡調査概要

村川行弘

村山修一

—近世後期の紋油業の展開と幕府の油業統制(その二)—

禿氏祐祥

古代の人名についての覚書

八木哲浩

〔魚澄先生古稀記念国史学論叢〕B5判八二頁頒価二、五〇〇円・「京阪神史話」新書判・吹田市千里山関西大学日本史研究室内魚澄先生古稀記念会刊) (熱田 公)

五部大乗経と小蔵四大部

友田吉之助

尼崎藩の銀札

山中寿夫

大化前代における美濃について

直木孝次郎

—鳥取藩の請免制をめぐる—

横田健一

大垣廻し

永島福太郎

大化前代の播磨

吉井良尚

四天王寺楽人の社会的地位

林屋辰三郎

門人村上潔夫と殿村安守

吉田 晶

和泉国近木荘

福尾猛市郎

佃経營に関する二・三の問題

宇野幸男著

近世における白山麓の出作り関係史料

藤井 駿

—白峰村のむつし文書を中心として—

刈谷藩に関する研究

兵庫の文学

古田良一

中世禅僧の宋学観

若林喜三郎

防長のおちい達

松岡利夫

近世中期における地方商人の生活

和島芳男

—藩政下次三男の境涯—

松岡久人

—安芸国竹原下市を中心として—

渡辺則文

田堵の性格について

宮川 満

なお右論文集とともに、新書判の『京阪神

初期太閤検地の一性格

宮川 満

初期刊行されている。

70頁の三部からなつてゐる。